

講義名	研究演習				
講義コード	45430	授業形態		開講期・曜日・時限	通年 木曜日 5時限
担当教員	山口 志郎			サンパリング・コード	
学部・学科				演習分野	
人間社会学部・人間健康学科				スポーツ&イベントマネジメント（山口志郎ゼミナール）	
概要説明					
2021年東京オリンピック・パラリンピックが開催されて以降、スポーツ&イベントマネジメントは益々注目されています。本ゼミでは、スポーツ界で起こる様々な現象をイベントマネジメント（特にマーケティング）の観点から探究します。なぜFIFAワールドカップやオリンピックはあれだけテレビで放映されるのか？なぜ東京マラソンや大阪マラソン、神戸マラソンに多くのランナーが参加するのか？なぜナイキやアディダスのCMは魅力的なのか？など、こうした疑問をお持ちの方は是非とも一緒にゼミ活動を行いましょう。					
2回生の後期（研究演習 ）の活動 スポーツ界で起こっている現象の背景を探るため、新聞記事を用いてホットラインを行う。みんなでディスカッションしながらスポーツマーケティングの問題意識を高めます。二回生のゼミ活動のまとめとして、学内の社会連携プロジェクトに参加し、企画力を身につけてもらいます。					
3回生のゼミ活動（研究演習 ） パワーポイントを使用しながら、書籍プレゼンや企業プレゼンを個人で行う。それらの活動と並行しながら、学外のイベント（神戸マラソン参加者調査、NTTドコモレッドハリケーンズ大阪観戦者調査）、教員が行う研究プロジェクトへの参加などを通し、プレゼン力並びにコミュニケーション力を身につけてもらいます。特に、3回生のメインの活動は、学外の社会連携プロジェクトへの参加である。スポーツ業界への就職を希望される学生は、インターンシップ先やボランティア先を斡旋いたします。					
4回生のゼミ活動（卒業研究） 就職活動を柱に置きながら、卒業研究に取り組んでもらいます。もし教員に同行して国内外の学会に参加したい、発表を行いたいという学生は大歓迎です。その他ゼミ生対抗スポーツ大会や新歓、忘年会、BBQ、追いコンなど様々な行事を予定しています。基本的には、学生主体でこれらのイベントを行うため、こうしたイベントを通して、社会人の基礎・マナー、及びマネジメント力を身につけてもらいたいです。					
主な卒業論文のタイトル					
温泉施設におけるヘルスツーリズム推進の可能性：知覚価値、満足度、再訪意図の関連性に着目して アスレジャー市場におけるライフスタイルに関する研究：10・20代の大学生に着目して 企業交流運動会におけるイベント効果と満足度に関する研究：参加者における性別・年代比較 子どもの居場所としての子ども食堂の役割：スポーツを通じた社会的包摂アプローチ 体育会水泳部に所属している選手の健康意識と幸福感に関する研究 スポーツバーの現状と参与観察・写真分析に関する研究 大学生のスポーツにおけるモチベーションと学業との関係性 ハンドボール競技における参加動機と継続要因に関する研究 女子プロ野球観戦における観戦動機・阻害要因に関する研究：観戦者における性別比較 市民マラソンの参加動機に関する研究：参加者の個人的属性の違いに着目して					
教員よりの要望					
ゼミは講義と違い、自主的に行う活動です。自分の興味あるテーマやトピックについてとことん追求してください。また、課外活動（神戸マラソンボランティア、赤穂シティマラソン調査など）を通して、プレゼン力やコミュニケーション力を身につけてください。必ず就職活動に活かせるはずです。みんなのやりたいことを全力でサポートするので、一緒に頑張りましょう！					
選考方法					
ゼミ希望者の履歴書、成績、面接を総合的に判断しながら選考します。必ず個別ガイダンスにお越しください。					

評価方法	
出席、課題（レポート、プレゼンテーションなど）、ゼミ活動に対する積極性や貢献度によって評価します。	
教員英字氏名	研究室
Shiro Yamaguchi	5406
最終学歴	
和歌山大学大学院 観光学研究科博士後期課程修了	
学位	
博士（観光学）、修士（スポーツ健康科学）	
主な研究活動・社会活動・研究業績	
現在の研究テーマ ・ オンラインコミュニティにおけるバーチャルサイクリストのソーシャルキャピタル ・ スポーツイベント開催がもたらす社会・経済・環境的インパクト ・ トレイルランニングスポーツイベントにおけるリスクマネジメント ・ ステークホルダー視点のイベントレバレッジ戦略	
社会活動 ・ フリュッセル自由大学 客員研究員 ・ 神戸スポーツ産業懇話会 世話人 ・ 兵庫体育・スポーツ学会 ひょうご地域スポーツ振興プロジェクト プロジェクトメンバー	
主な研究業績 ・ Yamaguchi, S., & Yoshida, M. (2022). Effect of Consumer Experience Quality on Participant Engagement in Japanese Running Events. Sport Marketing Quarterly, 31(4), 278-291. ・ Yamaguchi, S., Yamaguchi, Y., & Nogawa, H. (2022). The perceived impacts of non-mega sporting events among host residents: A pre-post analysis of the Kobe marathon. Event Management, 26(2), 369-385. ・ Yamaguchi, S., & Ito, E. (2021). Conceptualization of Perceived Risk from the Participant Perspective in Trail Running Events. International Journal of Sport and Health Science, 19, 102-109. ・ 山口志郎・伊藤央二（2020）トレイルランニングイベントにおける主催者のリスクマネジメント：質的研究によるリスクとリスク対策の検討．生涯スポーツ学研究, 17(1), 13-26.	
趣味・特技	
趣味：温泉巡り、読書（推理小説） 特技：テニス	
所属	
人間社会学部人間健康学科	
所属学会	
European Association for Sport Management (EASM)、日本体育学会、日本スポーツマネジメント学会、日本生涯スポーツ学会、イベント学会、兵庫体育・スポーツ科学学会	
専門分野	
スポーツマネジメント、イベントマネジメント、スポーツツーリズム	
担当科目	
スポーツマネジメント論、スポーツマーケティング、健康サービス企画運営論、健康サービス企画運営演習、スポーツ施設マネジメント、研究演習、研究演習	
備考	
実務経験の有無及び活用	
実務経験あり：スポーツ関連企業やスポーツイベント、健康関連産業とのネットワークを活かし、ゲスト講義の依頼や現場実習（フィールドワーク）、担当者へのプレゼンテーション機会を創出する。	